

9人の視点



柳本 慰衣
露地みかん農家。
産直市「あぐりのさと」
の運営に携わる。



江本 美江
ハウスすいか栽培の
専業農家。子育ての傍
らPTA役員、県農村女性
リーダーとして活動。
元看護師。



横矢 佐代
飲食店を経営する傍
ら、土佐絵金歌舞伎伝
承会の事務局長、弁天
座運営委員事務局長と
してまちづくりに幅広
く携わる。

本 おいしいものを食べに
来ていただく観光を

高 知県は食べ物がおいしい
県ということで全国で第
2位ということです。

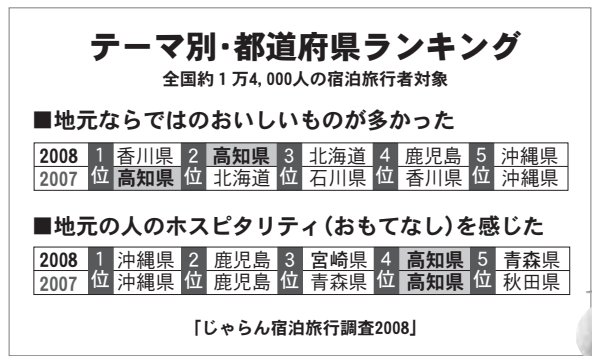
直販所の運営に携わる者とし
て、例えば、ドロメ汁ってどんな
ものですか」と聞かれたら「ここ
に來ないと食べられない」と答
えています。知事は外に売り出
すとおっしゃったが、高知にし
かないおいしいものを提供し、
うまいものを食べるために來さ
せないといけないのではないか
と思っています。

観 光版の地産外商は、県外か
らお客さんに来てもらう

ことだと思っています。おっしゃる
ように高知は、食べ物がおいし
いところ全国1位、2位になっ
た県なので、食を売りとして、観
光客に來てもらうことを考えな
ければと思っているところです。

本県は、いい観光地でも周りに
食事のできる場所が少なく、実
にもったいないと思います。

そこで、直販所を観光拠点とし
て使っていけないかと思ってい
ます。地場産品を食べていただき、
観光情報などを提供し、地域の
結節点として機能をフルに活か
せないかということ。これ
も観光産業と一次産業との連携
であり、今後県が目指すべき方
向ではないかと思っています。



岡 大事な魚に付加価値と
消費の場を

漁 業の後継者不足は何が
原因かと考えるとやはり
収入面にあると思います。魚の
値段が今の倍だった20年前に比
べ、今は原油などの値上がりで
家族を養うのも一苦労です。

今、手結を代表するシイラの
商品化に、かまぼこを研究して
いますが、大事な魚を食べても
らうのに、どのような付加価値
を付けるかが大事だと思います。
そして、鮮魚がたくさん消費
されるには、お客さんに地元で
滞在してもらうことだと思いま
すので、リフレッシュできるよ
うな宿泊施設があれば、かなり
の量が売れていくのではないか
と思っています。

漁 業については本場に「苦
労が多いと思います。」
おっしゃるように、観光客を
呼べる宿泊施設などがあれば量
がさばけるということも確かだ
と思います。今までの県のプラ
ンは、いかに効率的に多くの魚
を捕るかということでしたが、
今回、産業振興計画をつくるに
当たっては、どうやって高く売
るかという流通や販売の側面に
重きを置いています。

高く売るための鮮度管理や締
め方やシイラのかまぼこの話の
ように安価な鮮魚に加工を加え
ることで、付加価値を付けること
そしてお弁当屋さんなどの中食

産業や外食産業への新しい販路
の開拓などです。

12月に初めて、中食・外食産業
さんと生産者とのマッチングと
いうか、商談会を開催しますが、
こういう取り組みをもっと進め
ていくよう知恵を練っていきたく
と思っています。

田 山北ミカンの販路拡大と
消費動向調査に支援を

今 日もミカンを、ハサミの
音も軽やかにチヨキン(貯
金)チヨキンと採りたかったの
ですが、油も切れたのか、シャッ
キン(借金)シャッキンと、農家
は苦勞しています。

ハウスミカンは現在102人の生
産者があり、若者も40人ほどこ
います。私たちは次の代のために、
栽培技術の伝承や販売に努めな
ければなりません。

消費宣伝には、延べ80人の女
性委員が県内外で活動しフィー
ドバックもしていきたいのです
が、消費動向の調査には難しい
面があります。そこで県の支援
をお願いします。そこで県の支援

をお願ひし、高知野菜の11品目
の宣伝に加えて、果樹の宣伝も
お願いしたいと思ひます。また、
安全・安心に関して、6年前から
トレーサビリティ(生産履歴管理)
に取り組み、GAP(農業生産工程
管理)を検討しています。
多少の貧しさはあっても、心
豊かで安心な「農」を支援してい

ただきたいと思っています。

消 費者の声をフィードバッ
クするということをおっ
しゃっていただきましたが、首
都圏などでは消費者は世界のもの
を見ながら消費行動をしていま
す。そのなかで、高知のものを
売り込むために、アンテナショッ
プをテストマーケティングの場
などとして使っていたかどうか
にできないかと考えています。

生産段階で、非常に大切な点
としてトレーサビリティをおっ
しゃいました。これだけ安全・
安心志向が高まり、食品偽装が
問題になっているなかで、生鮮
物の付加価値として、是非とも
トレーサビリティを日本一徹底
し、県が認証を付していくことで、
農業振興の大きな柱の一つにし
たいと思っています。それがで
きれば、他県に負けない製品づ
くりができるのではないでしょ
うか。

今、大切なことは、県が汗をか
いて、県内の全生産者の方々に
利益が及ぶような販促の活動や
組織づくりをしないといけない
ということ。その研究を進め
ているところです。

柳本 中山間地域を
切り捨てないで

自 分たちの中山間地域を、
何とか活性化させたいと
いう熱い住民組織があります。

その活動のなかで、私たちの
思いを阻んだのが行政の「費用
対効果」という言葉でした。財政
難の折の尺度も分かりますが、
自分たちの思いが伝わらず情け
ない思いでした。合併するとき「い
ずれ山の人間は捨てられる」と、
今でもそういう危懼を持ってい
る人が地域にはいます。

現在、拠点となる「あぐりのさ
と」は、直販所として県の地域支
援企画員さんや市の職員さんに
も協力いただき、今年10周年を
迎えることができました。行政
の支援というのは、金銭面に限
らず、一緒に考えてくれる姿勢
から始まるのではないかと思ひ
ます。政には、地域や人とのつな
がり的大事ではないでしょうか。

費 用対効果を見捨てること
はできないと思ひますが、

地域で一生懸命やっておられる
取り組みを、どうやってバックアッ
プさせていただけるかを考える
ことは必要だと思っています。

全県内に派遣させていたたい
ている地域支援企画員は、地域
のにぎわいの創出などに、きめ
細かく対応させていただく役割

岡 大事な魚に付加価値と
消費の場を

漁 業の後継者不足は何が
原因かと考えるとやはり
収入面にあると思います。魚の
値段が今の倍だった20年前に比
べ、今は原油などの値上がりで
家族を養うのも一苦労です。

今、手結を代表するシイラの
商品化に、かまぼこを研究して
いますが、大事な魚を食べても
らうのに、どのような付加価値
を付けるかが大事だと思います。
そして、鮮魚がたくさん消費
されるには、お客さんに地元で
滞在してもらうことだと思いま
すので、リフレッシュできるよ
うな宿泊施設があれば、かなり
の量が売れていくのではないか
と思っています。

を負ってものなので、ご相談も
いただき、是非とも、雇用、収入
を生むような仕組みづくりにつ
なげていただきたいと思います。

山の人間は捨てられるのでは
ないかとおっしゃったけれど、
高知は多くの方が中山間地域に
住んでおられます。課題の一点
目は産業をつくるということ、
もう一点は、暮らしていくこと、
うにするとということですが、20
年度は中山間対策事業をかなり
強化しました。今、牧野植物園と
共同で薬草の研究をしています
が、手間がかからず高齢の方で
も育てられ、連作して収入があ
げられる作物を探しています。
中山間で暮らしていける産業づ
くりを、真剣に全力で考えなく
てはならないと思っています。

江本 健診率アップに向けた
行政の努力

知 事が目指しておられる県
づくりの骨格にも長寿県
ということが掲げられています。

農業人口が多い高知県で、いか
に農業者が健康でいられるかと
いうことを今、真剣に考えない
といけないと思うのですが、行
政の住民に対しての働きかけが
弱いような気がします。

今年、基本健診が特定健診になっ
て、その健診率が上がらないと、
私たちの国保料に即ね返って
くるのですが、ほとんどの方は

そういうことを知りません。

みんなで取り組むために、住
民をどう動かすかということ、
しっかりと行政として考える必要
があると思います。そして、県や
市町村が先導役になって、活動
したいと思っている住民の後押
しをしてほしいと思います。

先ほど知事が言われた「県が
汗をかくて県民に利益を返す」
そういうことの先頭に立ってい
ただく地域支援企画員さんたち
は、頻繁に私たちに姿を見せて
ほしいと思いますし、市の職員
も香南市のトップセールスがで
きるくらいの知識を蓄えてほし
いと思います。

最後に、農業と保健の分野は
密接に関係があると思うので、
県が農協だけに肩入れすること
はできないと思いますが、私た
ち農業者がよりどころにしてい
る農協が、情報の発信基地にな
れるような使い方も考えていっ
てほしいと思っています。

メ タボ対策、特定健診の推
進に「よさこい健康プラ
ン21」をつくり、進めようとし
ているところですが、浸透力がま
だまだ弱いということですね。
関係部局にも伝え、おっしゃる
ように例えばJAさんなどを通
じて推進していくとか、改めて
対策を考えてみたいと思います。